

詠む広場

毎日俳壇

井上 康明 選

うす雲の触れゆく春の星座かな

相模原市 小山 鞠子

△評▽あなたかく洗われたように
またたく春の星座を、かすみがか
ったうす雲が過ぎてゆく。柔らか
い闇が星座の背後に広がっている。
紫紺かな判決の日のサイネリア

尾張旭市 小野 薫

△評▽裁判の判決の日、紫紺のサ
イネリアに良い判決であるように
祈る。晩春の晴れた朝だろう。
榎の花水膨らんで透きとほる

鎌ヶ谷市 佐藤 紀子

風光る一口大のクロワッサン

東京 石川 昇

春寒やレジへ添へたる募金箱

川崎市 折戸 洋

すつばりと丸刈りにして山笑ふ

飯塚市 倉田 幸男

サイレンに堰切る川や柳の芽

つくば市 北川 里子

鞆ののりごと触るる握手かな

東京 望月 清彦

行商の煽がくれし海栗ひとつ

葛城市 山本 啓

タンポポや大飛球追ふ中堅手

東京 野上 卓

片山由美子 選

遺跡見る行列につく余寒かな

長岡京市 みつきみすず

△評▽歴史に関心をもつ人がふえ
ている昨今、遺跡巡りも人気であ
る。作者も、春とはいえまだ寒い
中を出かけて行ったのだろう。
青空へミモザの黄色湧くごとし

広島市 谷口 一好

△評▽ミモザのあざやかな黄色
は、晴れた日にはまぶしいほど。
まさに湧き上がるように咲く花。
夕ぐれやほとと明るき雛の部屋

有田市 谷中 節子

流し雛壇に落つるを躊躇へり

名古屋 平田 秀

寝返れば壺の蠟梅香りけり

和歌山市 宮本 啓子

自転車の乗り込む渡船朝霞

土岐市 水野 雅子

大福を妻よりバレンタインデー

山梨市 浅川 青磁

ふりむきしところにあつた路のたう

和歌山市 中筋のぶ子

女性誌の附録に春のシヨールかな

白杵市 村上 玲子

あたたかや赤子預かり気もぞろ

大阪市 吉田 昌之

小川 軽舟 選

すつしりと募金の硬貨日脚伸ぶ

鳥取 馬野慎一郎

△評▽クラウドファンディングは
やりの昨今だが、一人一人の善意
の重く詰まった募金箱のありがた
みは変わらない。
水温む回収箱の外來魚

大津市 横川 和醸

△評▽琵琶湖の外來魚を減らす取
り組みか。放流しておいて回収す
る人間の勝手にあきれれる。
突堤にフェリー迎へぬ涅槃西風

徳島 坂尾 徑生

じつくりとほぐす足首草萌ゆる

さぬき市 景山 典子

春遠し梢静かに空仰ぐ

西宮市 上田 佳子

あたたかや門をくぐれば煮物の香

大阪市 吉田 昌之

早春のアトリエへ森ささめけり

羽曳野市 袴田 俊一

春立つや貧農園の畦道に

東京 岩崎 美範

ごつごつとまたもの言はぬ冬芽かな

八街市 山本 淑夫

配達ヘッドライトにぼたん雪

羽曳野市 鎌田 如水

西村 和子 選

入院す庭の水仙剪りつくし

名古屋 井上美保子

△評▽入院の荷に庭の水仙の束を
加えたのだろう。明日からは庭の
景色を楽しめることができなとい
う、寂しさがのぞく。
小流れに泥靴濡く日永かな

高山市 直井 照男

△評▽一日中野山を歩いてもまだ
明るい。流れの水もぬるむ頃。春
の実感が伝わってくる。
炊きたてのご飯こんもりぼたん雪

小田原市 林 梢

はだれ野を鴉の漁る日暮かな

川越市 大野有之介

梅一輪活けて調ふしじまかな

清瀬市 橋本 武志

屋のサイレン春風を追いかけて

大栗市 宗平 圭司

原種とは良き響きなり数椿

東京 山口 治子

幼な児の頬にケチャップ冬休

館林市 坂口いちお

枝垂梅伝ひて落つる雨滴かな

大阪 池田 壽夫

大根抜いきなり土の匂ひかな

有田市 谷中 節子

<句集>

◇蜂谷一人『四神(しじん)』「NHK俳句」などを担当した元プロデューサーの第2句集。視覚的な作品が特徴。「後書きに代えて」と題された動画的俳句論は映像用語が用いられ興味深い。△吊革(つりかべ)に屈くおほきな苗木かな▽△甲板を泡の流るる涼しさよ▽△鍵に合ふ鍵穴探す夏館(朝出版・2750円)
◇尾池和夫『季語を食べる』(尾池版・食の歳時記)と銘付った一冊。「季語を飲む」の章の、春になり牛や馬を牧場に放つ「牧開(まきひらき)」「がなせ」「飲む」の範囲に入るのの考察が楽しい。科学的かつ俳句に寄り添った内容の一書である。(淡交社・2100円)
◇山田権(かや)『昔合せ』第2句集。日本と海外の往還の中で生まれた面白い句に特徴がある。海外在住の子や孫についての句もい。△たんぼぼやゴッホとテオの墓低き▽△夏子(おむ)る祖国二つの子に別れ▽△木々芽吹くエッフェル塔は透かし編み▽(ふるんす堂・2800円) (俳人・権未知子)

<歌集>

新刊

◇三井修『天使領(てんしりょう)』2019年から23年前半までの作品を収録。コロナ禍などがあつた社会情勢のなか、明るさを希求する第11歌集。△早春の天の光を零(こぼ)さじと白木蓮(はくもくれん)は花を掲ぐる▽△天使領ほどの真書のシート置く人の気配のせぬ家の屋根▽(角川書店・3080円)
◇大松達知『ばんじろう』日常の何気ない場面を鮮やかに切り取り、口語の表現をいかして詠む。男子中学・高校で英語を教える著者の第6歌集。△まっすべにわれを見つめるいくつもの目がありてまだ教員をする▽(六花書林・2750円)
◇富田睦子『声は霧雨』第3歌集。家族3人の姿が手触り感のある歌からいきいきと立ち上つてきて、歌の場面を想像させる。自ら内面を見つめる目が確かである。△制服をすぼんと脱いで日曜の音子(あこ)はアヒルのようにくつろぐ▽(砂子屋書房・3300円) (歌人・中川和子)